

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・学習指導要領が変わり、学生が持つ書籍の量が増えれば、バックを買い換えるなど、多少購買につながる可能性がある。 ・景気が悪くなっているが、市長の交代で市民の間に期待感が芽生え、また実際に店舗の新規オープンや計画が色々出てきている。
		商店街（代表者）	・行楽シーズンに入ってくるので、旅行者が増えてくる。現段階でも、予約数は前年を越えているので期待できる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・1月から行っていた、館内の改装工事が3月でほぼ終了して、春の行楽客に期待が持てる。
		観光型ホテル（経理総務担当）	・暖かくなれば観光客の増加が見込まれる。また今年是世界遺産となる石見銀山効果もあるので期待できる。
		都市型ホテル（経営者）	・景気が良くない状態はずっと続いているが、昨年の年末から特に客の様子が厳しくなっているので、今後も厳しい状態は続く。
変わらない		一般小売店〔靴〕（経営者）	・相変わらずガソリン関係を中心にあらゆる物の値上げで、経営を圧迫しており、この状態は変わらない。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・長期予報では3～4月は春らしい日が続くと予想されているが、ミセスゾーンでは旅行や結婚式等の予定がないとセット購入が期待できない。また、相変わらず単品買い中心の傾向は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・新生活関連へのニーズが高まる時期となってきたが、諸物価高騰のため、必要なもの以外は購入しない。また価格に対するシビアな傾向はいよいよ強まると考えられ、景気回復となる要因は見えて来ない。
		百貨店（販売促進担当）	・例年だと3～4月に向けての入園・入学のフォーマルウェアが動いてきていいはずだが、今年は動きが鈍い。また学生服関係では、少子化のせいか、おさがりを上手に使っている傾向が見受けられる。2～3か月先をみても、売れ筋商品も見当たらず、目先が不安定な状況である。
		百貨店（購買担当）	・3月に実施する全館リモデルの効果がまだまだ続くと思われるが、物価の高騰や株安の影響がいつまで続くか不安要素が大きい。
		百貨店（販売担当）	・売上高が前年比で増加しているが、原油高等によりあらゆる単価が上昇している影響が大きい。来客数の伸びも望めないため、現状と変わらない。
		スーパー（管理担当）	・当面はキャンペーンも好調であるので、この順調な動きで推移しそうである。ただしパイの取り合いであるので、競合のなかで、メーカーによっては不振部門の撤退という話も聞こえてくる。
		コンビニ（エリア担当）	・値上げが続く傾向のなか、酒類では12月に1社が値上げし、3月から他社もこれに追随する。同じく3月からは乳製品も値上げになり、客の買い控え傾向は今後も続く。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・全体の売上は前年を上回る状況が続いているが、それは販促施策であったり、季節的な要因であったり、市況全般の回復とは言えないこの状況が続く。
		自動車備品販売店（経営者）	・来客数の動きとインターネットの普及による価格破壊により、売上が上がったとしても利益が上がらない状況は続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・3月の来客数は前年比でやや少なめ、4月の予約はまあまあである。ただし6月の予約は少ない。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・物価の高騰、食の安全の問題が、今年に入りボディブローのように効いている。外食もしばらくは控えめの傾向が続く。
		都市型ホテル（従業員）	・宿泊の団体等予約状況は、前年並みか少し上向きであるが、前年も4月に向け好調に見えたがその後失速したため、楽観できない。
		タクシー運転手	・介護タクシー輸送をやめ、その分の売上が減少していく。ただし、来月には運賃の値上げが正式に決まったので、現状維持は出来る。

	タクシー運転手	・タクシー業界は、夜の繁華街の動きがバロメーターになるが相変わらず平日は非常に少ない。週末についてはかなりのにぎわいを見せてきているが、長距離客がなかなかない。これから天候が回復してくれば、少しは回復してくるが、基本的には変わらない。
	通信会社（総務担当）	・新築集合住宅等の大型案件の予定がなく、需要の水準は大きく変わらない。
	テーマパーク（広報担当）	・維持管理に必要な油代だけでも相当な負担増となる。ドライブによる来客も減っており、来客数増は見込めない。
	テーマパーク（業務担当）	・春に向けて気候は温暖になるものの、ガソリンを始め、物価の全体的な値上がり感が高まっているなど、来客数などが増加する見込みがない。
	住宅販売会社（従業員）	・来場者数の減少、契約単価の下落、原価の上昇等の傾向は続いていく。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・原油・貴金属等の商品の高騰、それによってもたらされるインフレ傾向と、良い材料はない。
	商店街（代表者）	・客の様子を見ると、食品を中心とした値上げ攻勢で、衣料に対しては財布のひもが非常に固い。客は良いものをいかに安く購入するかという、生活防衛の様子がありありとうかがえ、良くならない。
	一般小売店〔紙類〕（経営者）	・商品の価格がかなり上昇している。客の購買意欲が低下しているのに、販売価格が上昇しているため、必然的に景気はやや悪くなる。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・我が町は学園都市として大学を活かした街づくりを進めているが、受験生・入学者数が低調な状態でアパート経営者からは、家賃の減少や契約が困難であるなど、厳しい声が出て、売上にも影響している。数か月先にはその影響が町全体に出でくる。
	百貨店（営業担当）	・しばらくは競合商業施設のオープンの影響を受ける。
	百貨店（売場担当）	・春物の出足が非常に悪く、月初めにおいても苦戦する。原材料の高騰で価格が上がっており、すんなり販売に結び付かない感触が強い。
	百貨店（売場担当）	・近隣郊外に大型ショッピングセンターが完成予定であり、しばらくは客が遠のく。
	百貨店（売場担当）	・今年の6月に、近隣に山陰地方で最大のショッピングセンターがオープンするため、そちらに客が流れる。
	スーパー（店長）	・地方においては、公共事業の更なる減少が消費に影響を与え、更に商品の値上げなど、景気の良くなる状況にはない。
	スーパー（店長）	・やっと客単価が前年を上回ったが、これは一品単価が少しずつ値上げになっているため、良い傾向ではない。各商品の値上げが実行される分、客は生活防衛に入って、若干悪くなる。
	スーパー（店長）	・中国からの原料が入ってこない。しかも、中国の食品の異物混入問題がまだ根本的に解決されていないため、客に不信感が残る。さらにいろいろな原料の値上げで、買い控えが一層強まり、消費が低迷する。
	スーパー（店長）	・報道されている中国食品の問題、ノート・再生紙の問題に加え、当店と取扱品目、客層がだぶる競合店が郊外にオープンしたことから、これから先苦戦が予想される。
	スーパー（店長）	・原価引上げに伴う価格上昇に加え、食品の安全性に対する不安により、今後は一層価格・産地への関心が高まり、売上は一層厳しくなる。
	スーパー（財務担当）	・仕入原価の引上げが今後も続くものと思われ、売上減と利益率の低下がある。
	スーパー（販売担当）	・いろいろな商品の値上げが続いているので、特に値上げ前に買い急ぐという姿勢が見受けられなくなった。客は更に慎重な買い方をするようになり、悪くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・競合店の影響を受けると思われるので、これから先2～3か月は、売上が若干前年を下回る状況が続く。
	コンビニ（エリア担当）	・いろいろな原料の値上げによる物価上昇が予測され、悪くなる。
	家電量販店（店長）	・オリンピックが目の前にあるが多くを望めず、原油高騰による諸物価の高騰から、ますます買い控えの傾向が強まる。
	家電量販店（店長）	・人口の増加が見込めないが、市場に競合店が多く、来客数の増加が見込めない。
	乗用車販売店（経営者）	・何と言っても原油の高騰が大きく影響している。すべての物価が上昇してきており、財布のひもが固い状況がまだしばらく続く。

		乗用車販売店（店長）	・車検時期の客が多くなり台替えの多い時期だが、買い控えの客が圧倒的に多く、前年の販売台数に対し伸び悩んでいる状況が続く。
		乗用車販売店（統括）	・地場の中小企業の社長達と懇談しても、次第に景気が悪くなっていくと予想している。また、弊社の状況も前年割れが続いて改善の目途が立たない。
		その他小売（営業担当）	・原材料の値上げに伴う物価の上昇で、消費が冷え込む。
		一般レストラン（店長）	・歓送迎会時期に入るが、忘年宴会の減少から判断して、あまり期待はもてない。家庭ではぜい沢となっている外食の回数の減少は必至となる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・3月からはビールの値上がりもあり、ホテルにとってダメージが大きく、また消費者の外食での節約ムードは高まっていく。
		通信会社（企画担当）	・年度が改まる時期を迎えつつあるが、サービスや手続に関する問い合わせ等が例年より少ない。これからの時期にサービスの動き自体が少ない。
		通信会社（通信事業担当）	・これから月々費用がかかる物についてはチェックが厳しくなり、家族構成などが変わり、入学、卒業などにより主に使用していた人がいなくなったサービスは、すぐに解約される。
		通信会社（販売企画担当）	・他社に対抗できる商品・サービスに乏しく、苦戦する。
		美容室（経営者）	・一時的ではあるが店舗の統合を行うので、その間店舗数が少なくなり、売上が減少する。
		設計事務所（経営者）	・これから先、改正基準法による業務停滞、建築費の高騰、金利の上昇といった、建築業界にとってマイナス要因しか見当たらない。
	悪くなる	スーパー（総務担当）	・食品やガソリンの値上げにより、車での外出を控え、また食料品への出費を抑える傾向は一層強まる。
		コンビニ（エリア担当）	・アイスクリームやチルド飲料等も3月に値上げされ、今後その他の商品も値上げが続く。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・最近は安くてお買い得感がある商品を探している人が非常に多くなり、値段を気にせず自分にあった物を購入する人が極端に少なくなっており、この傾向は変わらない。また今後、物価高と株価の影響が出てくる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・農業関係者は米価が下がり、農閑期に現金収入になる公共事業が少なく金回りが悪い。一般サラリーマンも給料が上がらず、ガソリン・灯油が値上がりし、生活防衛に必死である。当地は生産工場がほとんどなく、第一次・第三次産業が多いため、所得も低い。さらに中央から出店した大型店が地方の金を吸い上げてゆく構造で、地場の店舗に消費が回ってこない。地方の金回りを良くするには、特産品を伸ばすとか地方の特色を出して、観光客を増やしていくしかないが、これも厳しい。
		一般レストラン（店長）	・ここ2～3か月で、来客数はさほど変化がないが、客単価が100～150円前後低下している。客の使える金額がシビアになってきたようで、景気がどんどん悪循環になっていく。
		スナック（経営者）	・業界の理事長をやっているが、3月一杯で閉店する店が何軒もあり、組合員も1割以上減少する。全体では何割もの組合員が辞めていくような状態では、先の見通しは立たない。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・連休を挟むので、生産の絶対量は減少するが、新製品の好調と、更に追加される新製品の量産が立ち上がるので売上が増加する。
		建設業（経営者）	・現在の落ち込みは、公共工事等全体の量の低下もあるが、法改正による建築確認の遅れも大きく影響している。この対策の効果は少し遅れて出てくると思われるので、3か月先には現状よりは少し良くなっている。
	変わらない	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・引き続き大型案件の製造が続き、量的には高い水準が続く。ただし収益は価格転嫁がどの程度できるか次第である。
		鉄鋼業（総務担当）	・アジア方面での自動車、エネルギー関連分野の需要がおう盛であり、国内でも製造業向けの需要がおう盛なこともあって、しばらくは現在の鋼材需要の状況に変化がない。
		金属製品製造業（総務担当）	・4月から原材料価格の値上がりが見込まれるが、その値上がり分は社内だけでの吸収は厳しい状況にあり、製品価格に転嫁しなければ収益悪化要因になる。得意先にどれだけ認めて頂けるかが、かぎになってくるが、要求額の満額とはいかないまでも、ある程度は配慮してもらえる。

	電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車関連は、特に米国での販売が不振となっているのか、売上減少で在庫が膨らみ、生産調整の計画が出てきている。携帯関連も買い換えのペースが鈍化し、受注の動きも弱気なものばかりとなっている。	
	建設業（経営企画担当）	・民間工事の増加はあるものの公共工事の減少を埋めることはできず、この状況の改善は、今後しばらく期待できない。	
	輸送業（統括）	・今月に比べれば良くはなるが、前年比では収入的にあまり変わらない。燃料代が高騰しているため利益面では悪くなる。	
	通信業（営業企画担当）	・当面の引き合い状況、新年度販売見通し等の検討においても好転材料が見当たらず、当分厳しい状況が続く。	
	金融業（業界情報担当）	・米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き堅調で、当面は高水準の受注が続く。	
やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・本来なら3月から春夏の製品の増産体制が予定され、原料の調達も既に済んでいるが、今年はまだできておらず、春夏の売上予想が見えてこない。1か月でもずれると影響が大きいので、懸念される。	
	化学工業（総務担当）	・原材料費の高騰が、販売価格にどう反映されるか不透明である。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内市場の冷え込みは今後も続く見通しで、回復の兆しは全く見られない。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・クライアントからの受注が3月以降、足踏み状態になりそうである。人も若干たぶついている。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・今後も受注量・生産高共に横ばいの状況が続くが、原材料・購入価格の上昇、高止まりに加え、償却費・人件費・社会保険料等の負担増、さらには為替相場の動向など先行き不透明な要因を抱えており、業績面では大変懸念される。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・やはり各種商品、原材料などの値上がりが継続すると思われ、今以上に落ち込んでくる。	
	金融業（営業担当）	・企業の収益が上がらないので、経営者に、借入れをしてもキャッシュフローが出ず、返済が出来なくなる危惧を持っている。したがって、設備資金に対する意欲がかなり欠けている。	
	会計事務所（職員）	・利益が出ている事業所でも、その内容を見ると、増収によるものでなく経費の削減によるものの方が多く、コストカットの対策もそろそろ限界にきている。その上、4月以降は鉄等の基幹資材の値上げが予想されるので、見通しは厳しい。	
悪くなる	非鉄金属製造業（経理担当）	・じわじわ物価が上昇しており、会社の業績の下方修正を発表した。	
	コピーサービス業（管理担当）	・年度末で多少の増は期待できるが、その後は期待どころか冷え込みは真冬に逆戻りとなる。また、原油価格の影響によるコストアップが響く。	
雇用関連	良くなる	-	
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・新卒向けの採用イベントの問い合わせが多い。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・企業の採用は一服感を見せており、正社員採用が落ち着くことから、派遣での就業希望者が増える可能性がある。しかし、来年度から、社会保険料の負担増など、派遣事業者にとっての環境が厳しくなる面も見受けられ、景気の先行きは不安定である。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・企業の求人意欲は底固くあるのだが、求人のニーズは鈍くなる。まず4月に新入社員が入ってくるので、求人のニーズは一段落する。
		職業安定所（職員）	・看護師・薬剤師・ヘルパー・美容師などの専門職や、製造工場関係下請の技術職などの求人は多数存在しているが、求職者自体が減少傾向にあるなかで、依然として企業が求める人材が確保できないミスマッチが生じている。
		職業安定所（職員）	・現在、新規の雇用創出の動きもなく、経済状況が好転する材料もないため変わらない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・原油価格の高騰の影響で材料費が上がるなか、即販売価格に転嫁するのは難しい状況もあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が多く、結果として求人意欲が冷え込む。
		職業安定所（雇用開発担当）	・前月に引き続き、衣食住等生活関連物資の値上げ報道がなされ、また原油の高騰による卸値価格の引上げも2月末報道され、国民の消費活動は一段と厳しいものとなってきている。これらから第2次産業は生産調整に入り、労働市場から新たな人材を求めることがなくなり、これまでの売手市場から、買手市場への転換となる様相・要因が現れる。

	民間職業紹介機関（職員）	・正社員の採用基準が半年・1年前と比較するとハードルを上げてきており、正規雇用の増加が期待できない。
悪くなる	-	-